

「会員短信2」

「生涯現役」 田中早苗

私と八木健先生との出会いは、日本農業新聞の俳句欄です。「緑蔭で実生西瓜を鎌で割る」の句を出しましたら、何と入選。暑い日中、汗だくで農作業をしていますが、もうたまらない。西瓜でも食べようと、持っていた鎌で割り、かぶりついたことをそのまま詠んだだけでした。俳句など何も知らず、ただ自分の生活のひとコマを詠んだだけでしたが、この句を取り上げてくださった八木先生に感謝すると共に、病み付きになりました。

或る日、新聞で大阪市内のホテルで八木先生の講演があることを知り、息子に連れて行って貰いました。とても楽しく、お話の最後の浪曲も父を思い出してじーんとしました。この時に、滑稽俳句を知り、早速入会させていただきました。

文学的知識など全く無い田舎ババアですが、毎日畑で目にする、鳥、蛙、鶯など全て自然が師です。思い付いた事柄を、ああでも無いこうでも無いと鋏を振りつつ推敲し、家へ帰ってから書き留めています。

嫁いだ時は蛭（ひる）の総攻撃に遭い、ぞっとした事が忘れられません。人知れず涙を流してから六十年。今はすっかり百姓が好きになり、一日畑に出ないと気になって仕方ありません。夫のデイサービスの送迎をしながら、毎日、畑へバイクか車で通勤しています。仕事も俳句も生涯現役を保てましたら最高に幸せです。

お婆また畑に来たかと寒鴉